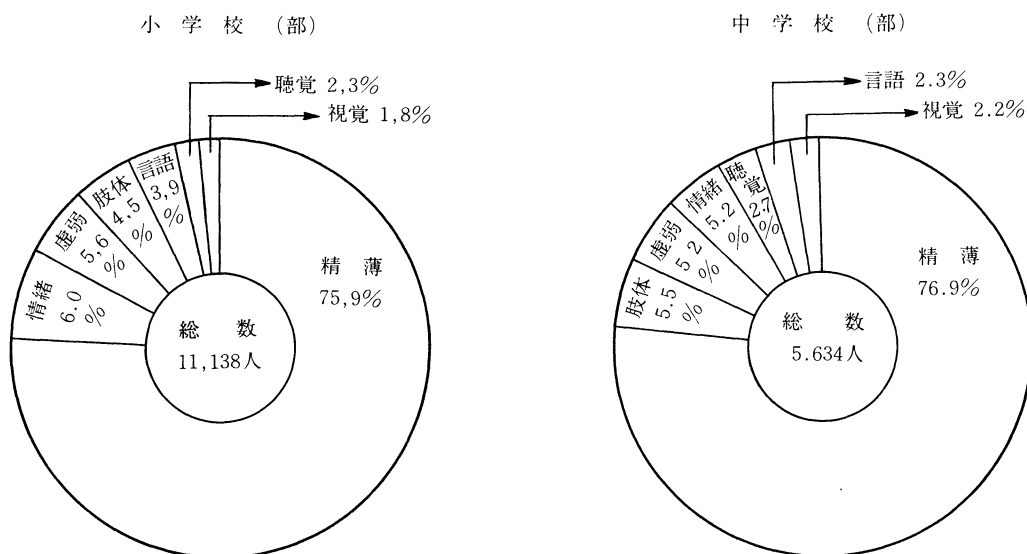


第1図 「心身に障害があるか、またはその疑いがあるとされた」児童・生徒の障害別の比率



第3表は、就学児に対する障害別の比率であり、第4表は、学年別の人員である。

第3表 就学児に対する「心身に障害があるか、またはその疑いがあるとされた」ものの障害別比率

小学校 (部)				中学校 (部)			
出現順位	障害種別	人数	比率	出現順位	障害種別	人数	比率
7	視覚障害	197	0.10	7	視覚障害	125	0.11
6	聴覚障害	252	0.13	5	聴覚障害	152	0.13
1	精神薄弱	8,455	4.31	1	精神薄弱	4,335	3.79
4	肢体不自由	505	0.26	2	肢体不自由	308	0.27
3	身体虚弱(病弱)	622	0.32	3	身体虚弱(病弱)	293	0.26
5	言語障害	434	0.22	6	言語障害	127	0.11
2	情緒障害	673	0.34	4	情緒障害	294	0.26
	計	11,138	5.68		計	5,634	4.93

第4表 「心身に障害があるか・またはその疑いがあるとされた」障害別・学年別人員

区分	小学校 (部)							中学校 (部)			
	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	計
視覚障害	29	27	44	31	41	25	197	38	49	38	125
聴覚障害	49	36	40	34	36	56	252	54	42	56	152
精神薄弱	818	1,309	1,467	1,595	1,683	1,583	8,455	1,516	1,546	1,273	4,335
肢体不自由	74	86	71	96	83	95	505	95	119	94	308
身体虚弱(病弱)	90	122	115	120	83	92	622	88	107	98	293
言語障害	104	100	68	79	40	43	434	40	43	44	127
情緒障害	113	138	102	108	115	97	673	88	108	98	294
計	1,277	1,818	1,907	2,063	2,081	1,991	11,138	91	105	109	305

第5表は「教育上特別な取り扱いを要する」ものと、その障害別の比率である。小学校(部)、中学校(部)とともに精神薄弱が80%台を占め、言語障害を除いては、小学校(部)中学校(部)いずれも、ほぼ、同じ比率となっている。

第6表は、普通学級に在学しているものの障害別の内訳であり、第7表の(1)~(3)までは「学校(学級)種別、学年別、段階別」人員である。